

漁況予報 い わ し

第 215 号

【2019年9～10月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月は179トンで、前年(754トン)及び平年^{※1}(424トン)を大きく下回りました。また、8月は24トンで、前年(521トン)および平年(305トン)を大きく下回りました。2か月合計では203トンで、前年(1,276トン)および平年(730トン)を大きく下回りました。8月は時化や急潮の影響があり、例年と比べて水揚げ回数が少なかったことも不漁の原因として挙げられます。

相模湾側のまき網では、餌イワシとして断続的に漁獲していました。

魚体は、両月とも被鱗体長^{※2}（以下同）9-13cm（11cmモード）で、これは2019年生まれの0歳魚で、春生まれのマシラス（マイワシ仔魚）が成長したものです。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月は18トンで、不漁であった前年（6トン）を上回りましたが、平年（159トン）を大きく下回りました。8月は3トンで、不漁であった前年（0トン）を上回りましたが、平年（82トン）を大きく下回りました。2か月合計では21トンで、前年(7トン)を大きく上回り、平年(241トン)を大きく下回りました。

相模湾側のまき網では、餌イワシとして断続的に漁獲していました。

魚体は、9~11cmの小型成魚主体でした。

【シラス】

相模湾のシラスの漁獲量は、6月は昨年並みの低調(平年比0.6倍)となり、夏シラスのスタートとなる7月に持ち直しました。漁場形成は概ね全域で初旬と中下旬に安定し、標本船データより推定した7月の全体漁獲量は前年および平年を上回りました（前年比1.6倍、平年比1.2倍）。

8月に入ると台風による土用波の影響や南風の影響により出漁日数が減ったことに加え、時化後の漁場形成が不安定となるなど、シラス漁にとってマイナスの要素が重なりましたが、8月としては過去最低だった前年の漁獲量を大きく上回り、平年並みの漁獲量となりました（前年比2.8倍、平年比1.0倍）。

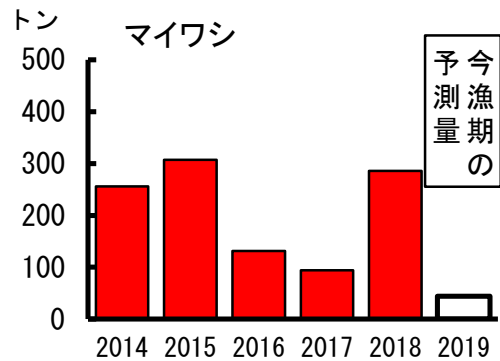
= 予 報 =

【マイワシ】

今漁期は、2019 年生まれの小羽マイワシ（11～14cm）が主体となるでしょう。

漁獲量は、7,8 月のヒラゴ漁獲状況から、前年(286 トン)および平年(170 トン)を大きく下回る、約 44 トンと予測されます。

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

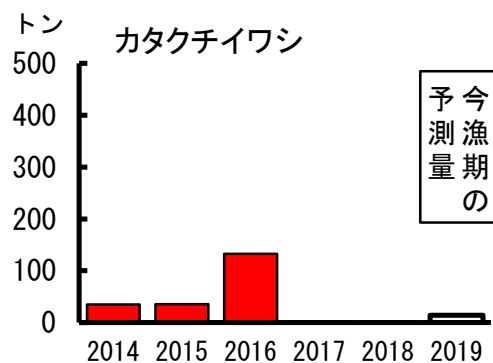


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（9～11cm）が漁獲の主体となるでしょう。

水揚量は、著しい不漁であった前年(2 トン)を上回り、平年(43 トン)を大きく下回る約 14 トンと予測されます。

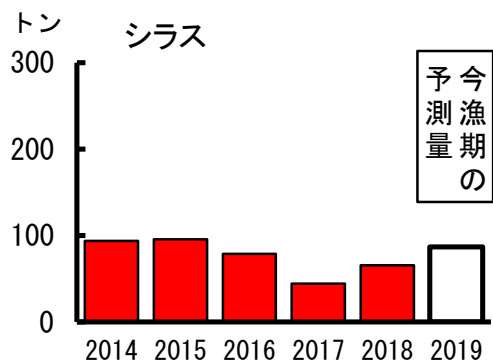


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、8月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

漁獲量は、前年を上回る約 87 トンと予測されますが、大蛇行している黒潮の北上流路がS字状になり、相模湾内の漁場での流速が早まるような場合は、これを下回るでしょう。



神奈川県水産技術センター 栽培推進部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2314